

授業科目名(英文名)	コミュニケーションネットワーク学特論A (Communication Network A)				
担当者名	福島 学				
学年	1	学期	前期	必修選択	選択
教科書	適時指示します				
目的または到達目標	<p>情報通信技術は、単にデータを装置間で交換するだけでなく、知的コミュニティをサポートする重要な工学技術の1つである。しかし、コミュニティを適切にシステムによってサポートするには、システムが適切に状況を把握し、それに応じて動作しなければならない。</p> <p>本講義では、これらのことを踏まえ、現象の計算機での捕らえ方から情報通信としての取り扱いと並行し、コミュニティを構成する重要な要素である人間の計算機での捕らえ方から情報伝播の過程とそこにおける計算機のありかたについて学ぶことを目標とする。</p>				
授 業 内 容	<p>[システム分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術の基本である国際標準規格について学びます。</li> <li>・情報通信における情報の数値化技術について学びます。</li> <li>・現象を把握するための情報通信技術について学びます。</li> <li>・情報を提示するための情報通信技術について学びます。</li> </ul> <p>[ヒューマンファクタ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションモデルとしてSpeech Chainを学びます。</li> <li>・コミュニケーションモデルとしてCyberneticsについて学びます。</li> <li>・どのレベルでどのような技術があるかについて学びます。</li> </ul> <p>[融合・統合化技術]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンファクタとシステム分野で融合・統合可能な事柄について学びます。</li> <li>・融合・統合における原理的な問題と実装上の問題について学びます。</li> </ul>				
関連科目	コミュニケーションネットワーク特論A, (学部・情報メディア学科開講科目: インターネット1・2・3・4, 研究ゼミナール, 卒業研究)				
受講心得	大学院開講科目のため、学部で学習した内容を復習し理解しておくことを強く薦めます。特に研究ゼミナールおよび卒業研究を通して取得する「自ら考える能力」と「整理し理解する能力」が必要となります。内容に応じて課題および実習があるため、PCでのプログラム作成できることが望ましく、エクセルで関数を使った数値処理が出来ることが必要です。				
課題・質問等の受付方法	メール, メッセンジャ, 来室のいずれでも受け付けます。				
授業の形式	座学を中心としますが、受講者の理解度によって課題を講義内で行う演習形式を併用します。				
履修上の注意または履修条件	情報通信技術に関する学部授業程度の内容を理解しておくこと。学部卒業時に作成する卒業論文について理論的な内容の説明が出来ること。				
成績評価の方法	出席・課題・レポート等から総合的に判断します。				
参考文献及び指定図書	適時指示します。				